

2020年10月5日

JGAP/ASIAGAP制度の認定の活用について



JGAP

ASIAGAP

一般財団法人日本GAP協会
チーフテクニカルオフィサー
森田裕之

一般財団法人日本GAP協会について



JGAP **ASIAGAP**

日本GAP協会 (Japan GAP Foundation = JGF)

- JGFは2006年にGAPを開発・管理・運営する目的で有志による出資により設立された財団法人です。
- 現在 ASIAGAP / JGAP という2つの第三者認証プログラムを有する認証プログラムオーナー (CPO: Certification Programme Owner)。
- CPOとしての活動を通じ、安心安全・持続可能な農業の実現により広く社会に貢献する事を使命としています。

ミッション・ビジョン

ミッション

ASIAGAP/JGAPの認証プログラムオーナーとしての活動を通じ、安心・安全・持続可能な農業の実現により、広く社会に貢献する。

ビジョン

- 法令と社会規範を遵守し、公正、健全な活動を行う。
- 健やかな社会を維持・発展させるための基礎である農業のあるべき姿をGAPの普及・啓蒙を通じて実現する。
- GAPのプラットフォームとして国内外の関連組織と連携し、すべての機関にとり有益な活動を展開する。

沿線

- 2002-2007年 流通・JA・行政等、多様なGAPが日本国内で作られる。
- 2006年11月 NPO法人日本GAP協会 設立
 - 設立の目的①：日本の業界標準のGAPを構築すること
 - 設立の目的②：世界に通用する日本の本格的なGAPを創り、普及すること
- 2007年11月 JGAPの第三者認証制度がスタート
- 2010年 6月 JGAP青果物2010を発表。農水省ガイドラインに対応
- 2015年 1月 一般財団法人日本GAP協会、NPO法人GAP総合研究所の
2法人体制に発展

沿線

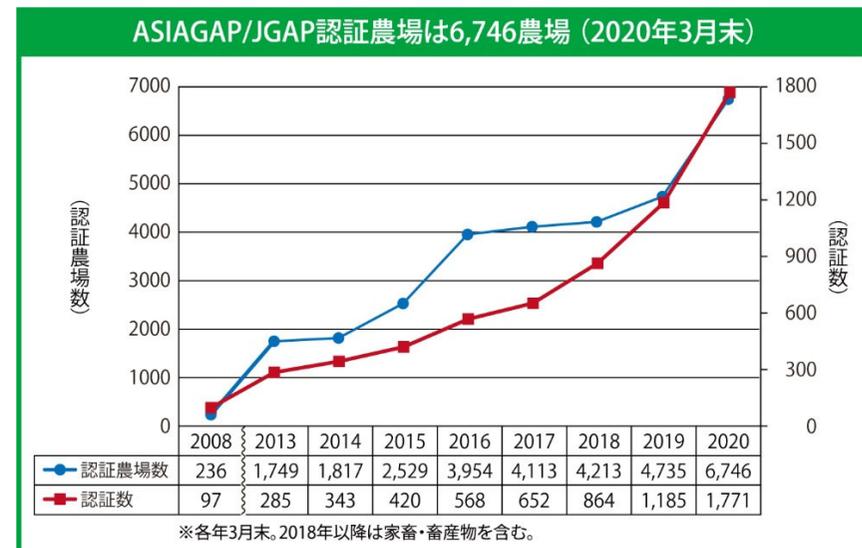
- 2016年 5月 Basic及びAdvanceの2本立てとなる「JGAP2016」を発表
- 2017年 3月 初の畜産のJGAPとなる「JGAP 家畜・畜産物」を発表
- 2017年 7月 JGAP Advanceの改定版となる「ASIAGAP Ver.2」を発表
- 2018年 5月 ASIAGAP Ver.2.1を発表
- 2018年10月 Global Food Safety Initiative (GFSI) のベンチマーク要求事項を満たした規格としてASIAGAPが承認
- 2019年 6月 ASIAGAP Ver.2.2を発表、8月に発効
- 2020年 3月から 新型コロナウイルス感染症の対応に関するレターを発行
- 2020年 9月 JGAP遠隔審査ガイドライン（農産物）を発行

認証数と認証農場数の推移

● ASIAGAP/JGAPの認証数、認証農場数

下の表は各年3月末時点の認証数、認証農場数の推移

2020年3月末では、それぞれ 認証数：1,771 / 認証農場数：6,746 と増加。



ASIAGAP / JGAP 基準 について



JGAP **ASIAGAP**

ASIAGAP / JGAP 基準書の版の一覧

日本GAP協会が管理・運営を行う最新の認証プログラムは次のとおり。

◆ **JGAP 2016** (家畜・畜産物は2017)

基準書 → (総合規則+管理点と適合基準 = 青果物・穀物・茶・家畜・畜産・団体事務局)

◆ **ASIAGAP Ver.2.2**

基準書 → (総合規則+管理点と適合基準 = 青果物・穀物・茶・団体事務局)

<JGAPについて>

- ✓ 10年の運用実績を持ち、日本の標準的なGAPとして必要十分な内容。
- ✓ 青果物、穀物、茶に加えて家畜・畜産物にも対応し、乳用牛、肉用牛、豚、採卵鶏、肉用鶏の生体と生乳、鶏卵を対象として、家畜衛生、アニマルウェルフェアへの配慮といった畜産特有の内容を含む。

<ASIAGAPの特徴>

- ✓ 食品安全に関するリスク管理を、Codex-HACCPに基づいて実現
- ✓ 食品防御、食品偽装への対応
- ✓ アレルゲン表示や、アレルゲン物質の交差汚染への対応
- ✓ 水を保管する場合の衛生管理
- ✓ 農場の選択制となる非通知の審査(総合規則) ……など

ASIAGAP / JGAP 5つの原則

ASIAGAP (/JGAP)は
農場運営、食品安全、
環境保全、労働安全、
人権・福祉を通じて生産、
 流通、消費の信頼関係を
 構築し、持続可能な農業・
 社会を達成する為に
 開発されました。



2020東京の食材調達基準 = GAP

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会における食材調達基準は、公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会が決定。

持続可能性に配慮した運営計画 フレームワーク(2016年1月)

- 気候変動、資源管理、水・緑・生物多様性、人権・労働・公正な事業慣行等への配慮、参加・協働
- ISO20121 (Event Sustainability Management System) の導入

持続可能性に配慮した調達コード 基本原則(2016年1月)

- 組織委員会が調達する全ての物品・サービス及びライセンス製品が対象

2020年東京大会の食材調達基準の策定については、昨年8月より組織委員会の「持続可能な調達ワーキンググループ」において議論が進められ、**GAPが調達基準となる事が2017年3月に決定された。**

この調達基準の決定を受け、「東京2020大会 飲食提供に係る基本戦略」は、2018年3月に公表された。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS 17 GOALS TO TRANSFORM OUR WORLD



 SDGs(持続可能な開発目標)は、2015年に国連193カ国が合意した、2016年から2030年までに達成する17の目標と169のターゲット。

 企業・団体が行う社会貢献活動として、これまでのCSR(Corporate Social Responsibility)とは違い、ESG(Environment, Social, Governance)投資の考え方と相俟って地球規模でのメガトレンドとなっている。

令和2年度 JAC セミナー

● テーマ：食品の安全性を高める

日本認定機関協議会（JAC）では、広報活動の一環として、JAC セミナーを開催いたします。昨年度までは、JAC 傘下の試験所認定機関連絡会(JLAC)主催にて JLAC 技術情報セミナーとして実施しましたが、今年度より、認証関係の認定機関を含む JAC としてセミナーを開催することといたしました。

JAC メンバーの加盟している国際認定フォーラム(IAF)と国際試験所認定協力機構(ILAC)は、「認定」の重要性を、より多くの方々に知ってもらう取り組みとして 6 月 9 日を「世界認定推進の日」(World Accreditation Day)と定め、毎年様々な認定に関わる社会的テーマに沿った広報活動を展開しています。今年のテーマは“認定：食品の安全性を高める” (Accreditation: Improving Food Safety) です。

本年度のセミナープログラムもこれに沿った、食品の安全性を高める をテーマに、ご紹介いたします。

皆様のご参加をお待ちしています。



Safe Food for Consumers, Everywhere



Harmonisation



Capability Building



Knowledge Sharing

GFSIについて



GFSI



**GFSI : Global Food Safety Initiative
(世界食品安全イニシアティブ)**

世界的に展開する食品企業が集まり、食品安全の向上と消費者の信頼強化のため、協働して食品安全管理規格の承認等を行う民間団体。

GFSI設立の背景



- BSEやダイオキシン等の食品事故の発生、遺伝子組換え作物問題等食品事故の多発
- 原料の調達・加工・生産の グローバル化
- 監査コストの増大
- 食品安全スキームの多様化

GFSI設立の背景



- BSEやダイオキシン等の食品事故の発生、遺伝子組換え作物問題等食品事故の多発
- 原料の調達・加工・生産の グローバル化
- 監査コストの増大
- 食品安全スキームの多様化

国内における近年の主な事件・事故



1996年 7月 大阪府堺市で学校給食へのO-157汚染による食中毒事件

2000年 6月 脱脂粉乳による大規模食中毒

2007年 6月 食肉偽装事件

2007年 12月 製冷凍餃子への農薬混入

2008年 9月 中国で牛乳へのメラミン混入

2011年 4月 焼肉チェーン店でユッケによる食中毒

2015年 2月 ハンバーガーチェーンで異物混入



GFSI設立の背景



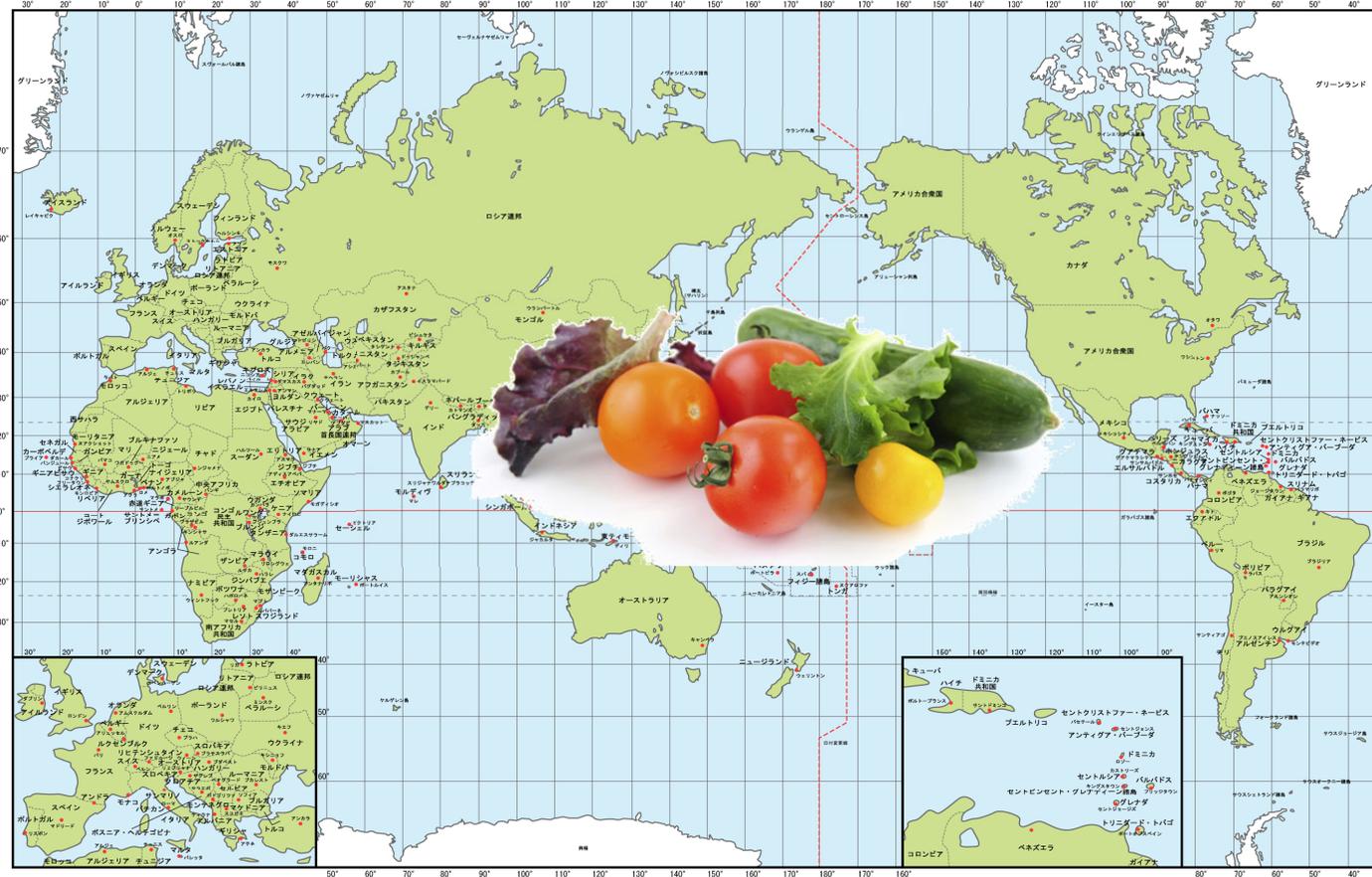
- BSEやダイオキシン等の食品事故の発生、遺伝子組換え作物問題等食品事故の多発
- 原料の調達・加工・生産の グローバル化
- 食品安全スキームの多様化
- 監査コストの増大

GFSI設立の背景



- BSEやダイオキシン等の食品事故の発生、遺伝子組換え作物問題等食品事故の多発
- 原料の調達・加工・生産の グローバル化
- 食品安全スキームの多様化
- 監査コストの増大

原料の調達・加工・生産の グローバル化



GFSI設立の背景



- BSEやダイオキシン等の食品事故の発生、遺伝子組換え作物問題等食品事故の多発
- 原料の調達・加工・生産の グローバル化
- 食品安全スキームの多様化
- 監査コストの増大

食品安全スキームの多様化



農業や商取引等の事情を踏まえたGAPが世界各国・地域にあり、これはその一例。もちろんJFSやISO22000等の食品加工・輸送・サービス業に対する食品安全スキームも上記の他に多数発行されている。

GFSI設立の背景



- BSEやダイオキシン等の食品事故の発生、遺伝子組換え作物問題等食品事故の多発
- 原料の調達・加工・生産の グローバル化
- 食品安全スキームの多様化
- 監査コストの増大

GFSI設立の背景



- BSEやダイオキシン等の食品事故の発生、遺伝子組換え作物問題等食品事故の多発
- 原料の調達・加工・生産の グローバル化
- 食品安全スキームの多様化
- 監査コストの増大

 **Once Certified, recognised Everywhere**

GFSI設立の背景

CGF GFSI Board Members



GFSI認定プログラム



 Japan GAP Foundation	 BRGS	 CanadaGAP	 Freshcare
 SQF	 FSSC 22000	 Global Aquaculture Alliance Seafood	 Global Red Meat Standard
 PrimusGFS Standard	 GLOBALG.A.P.	 IFS International Featured Standards	 Japan Food Safety Management Association

GFSI認定プログラム



GFSI認定プログラム



2.12 Accreditation of Certification Bodies

The Certification Programme Owner shall ensure that all activities resulting in the issuing of certificates are delivered by Certification Bodies accredited by Accreditation Bodies members of the International Accreditation Forum (IAF) and signatories to the Multilateral Recognition Arrangement (MLA) for the appropriate scope.

NB: All the IAF MLA signatories demonstrate conformance with ISO / IEC 17011.

**GFSI BENCHMARKING
VERSION 2020.1**

**PART II
REQUIREMENTS
FOR THE
MANAGEMENT
OF CERTIFICATION
PROGRAMMES**

認定の活用について



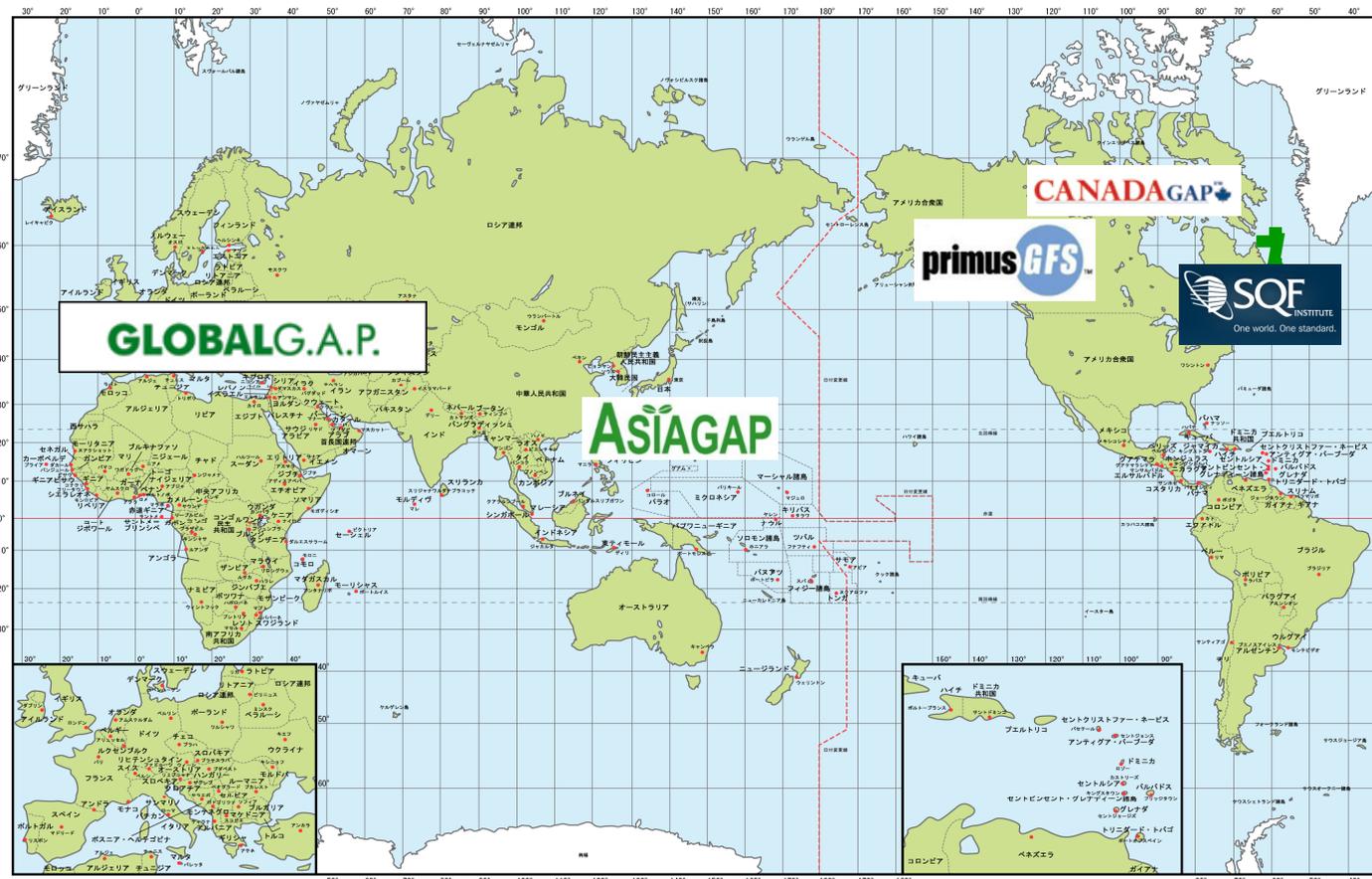
GFSI認定プログラム



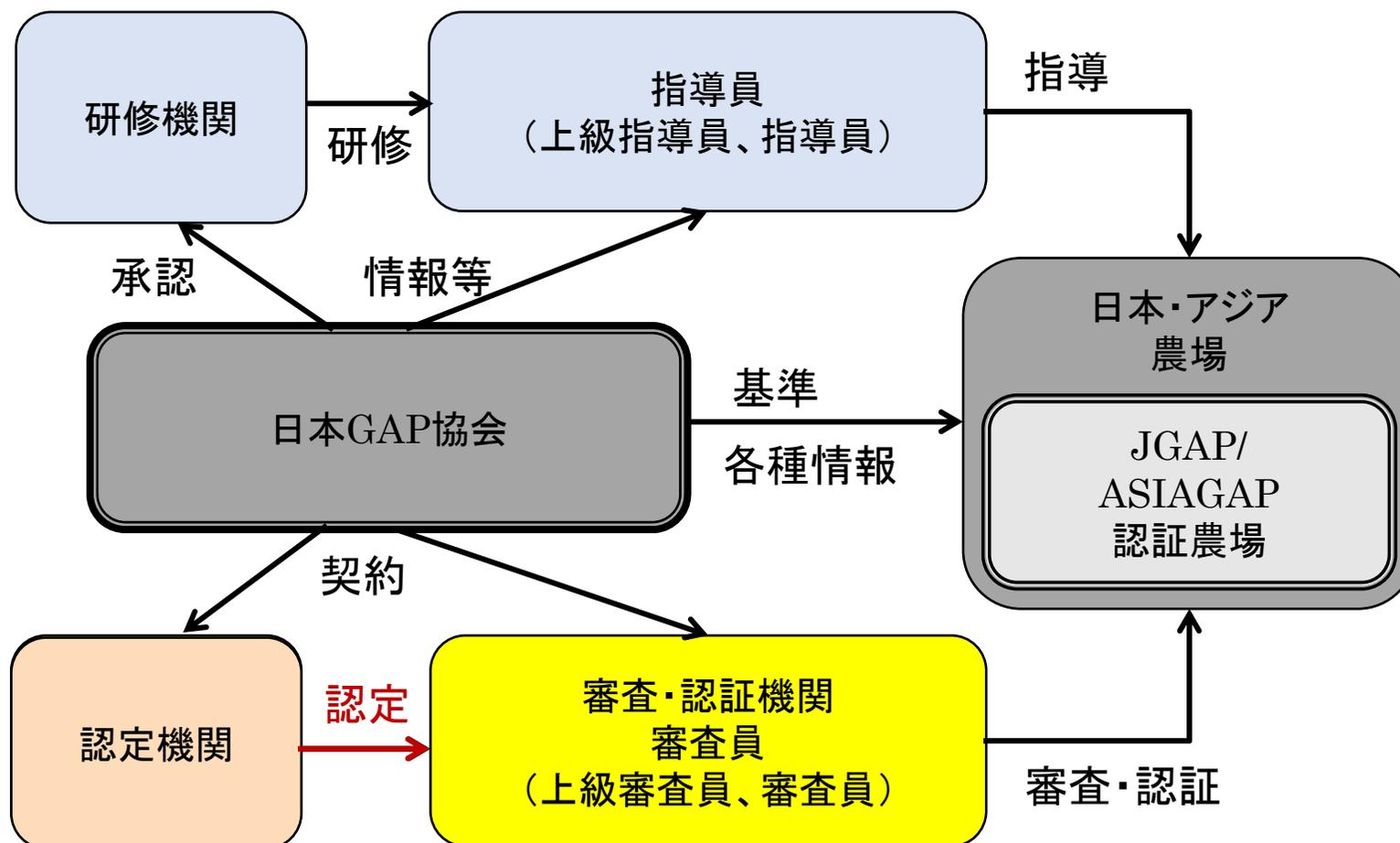
食品安全スキームの多様化



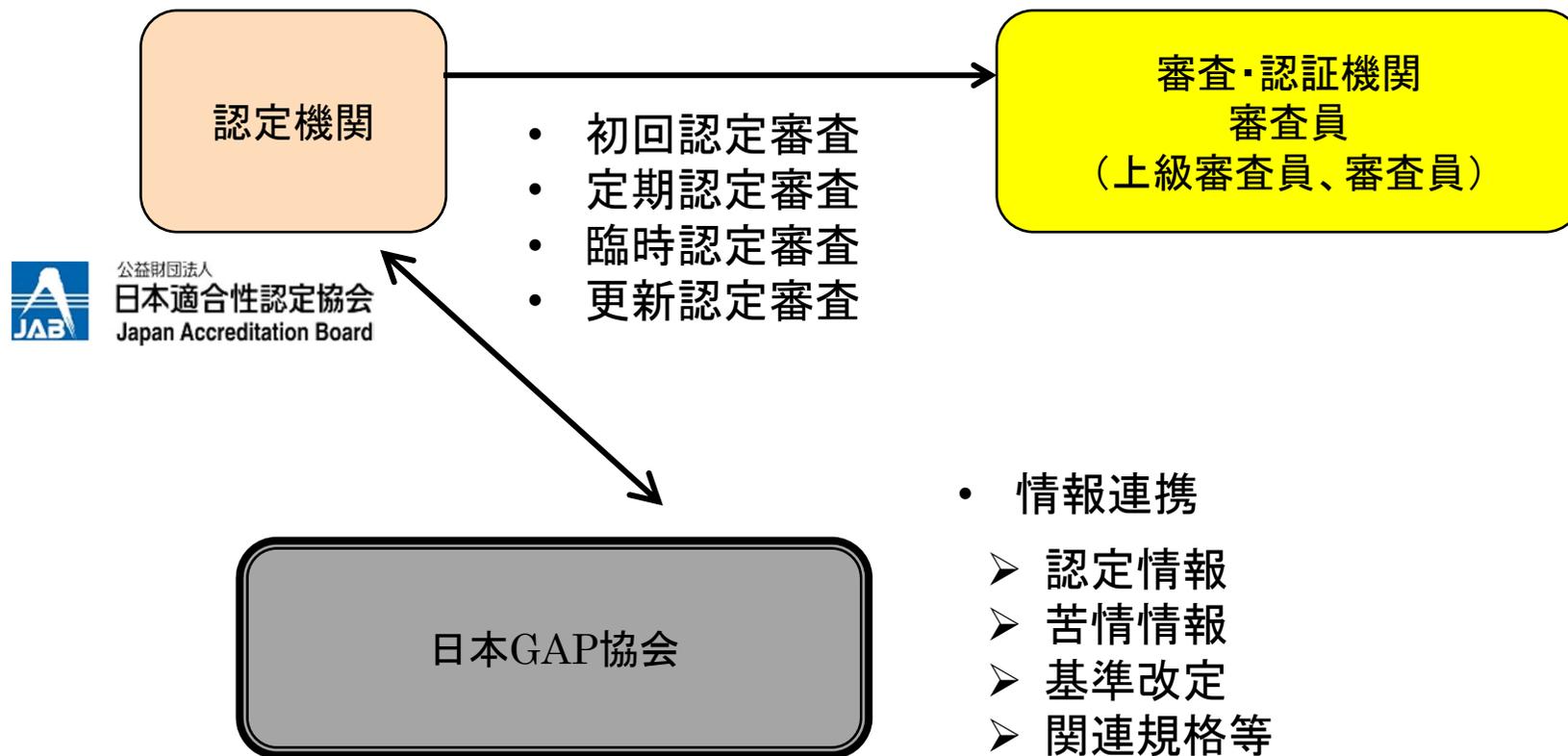
食品安全スキームの多様化



ASIAGAP / JGAP スキーム



ASIAGAP / JGAP スキーム



活用の例

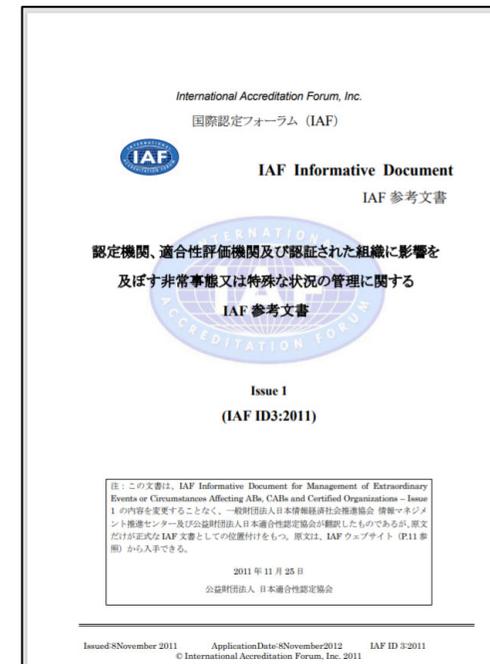
- 2016年 5月 Basic及びAdvanceの2本立てとなる「JGAP2016」を発表
- 2017年 3月 初の畜産のJGAPとなる「JGAP 家畜・畜産物」を発表
- 2017年 7月 JGAP Advanceの改定版となる「ASIAGAP Ver.2」を発表
- 2018年 5月 ASIAGAP Ver.2.1を発表
- 2018年10月 Global Food Safety Initiative (GFSI) のベンチマーク要求事項を満たした規格としてASIAGAPが承認
- 2019年 6月 ASIAGAP Ver.2.2を発表、8月に発効
- 2020年 3月から **新型コロナウイルス感染症の対応に関するレターを発行**
- 2020年 9月 **JGAP遠隔審査ガイドライン（農産物）を発行**

活用の例

- 2020年 3月から 新型コロナウイルス感染症の対応に関するレターを発行
- 2020年 9月 JGAP遠隔審査ガイドライン（農産物）を発行

Remote Auditing Activities for Accredited Food Safety Certification

IAF Food Working Group Task Force Document



ご清聴ありがとうございました



日本GAP協会（JGF）

〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町3-29

TEL: 03-5215-1112

E-mail: info@jgap.jp

<http://jgap.jp/index.html>